

「空車時定格総荷重表」

に基づき作業する

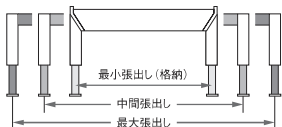
U-CANシリーズ☆☆☆ Super 及び Vシリーズ

空車時定格総荷重

空車時定格総荷重とは、トラックの荷台に積荷がない状態（空車時）での安定度に基づき、作業半径に応じた吊上げ性能です。フックなど吊具の質量も含んだ数値で表しています。

アウトリガ張出し幅によって変化する作業性能

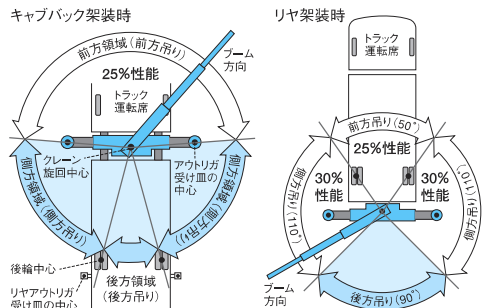
安定度は、アウトリガの張出し幅が広いほど高く、狭くなると低下します。空車時定格総荷重の性能はキャブバック架装時のアウトリガを最大に張出した時の後方・側方吊りの値です。中間張出し及び、最小張出し状態では性能がこれより低下します。通常のクレーン作業では、最大張出し状態で作業して下さい。



作業半径によって変化する作業性能

クレーンは、作業半径が大きくなるに従って、吊上げ性能が低下します。これは安定度によるものです。ボームの「伸」操作や「伏」操作を行う時は、作業半径が広がるので十分に注意して下さい。また、前方領域でのクレーン性能は、通常の25%以下に低下するので注意が必要です。

作業領域によって異なる作業性能

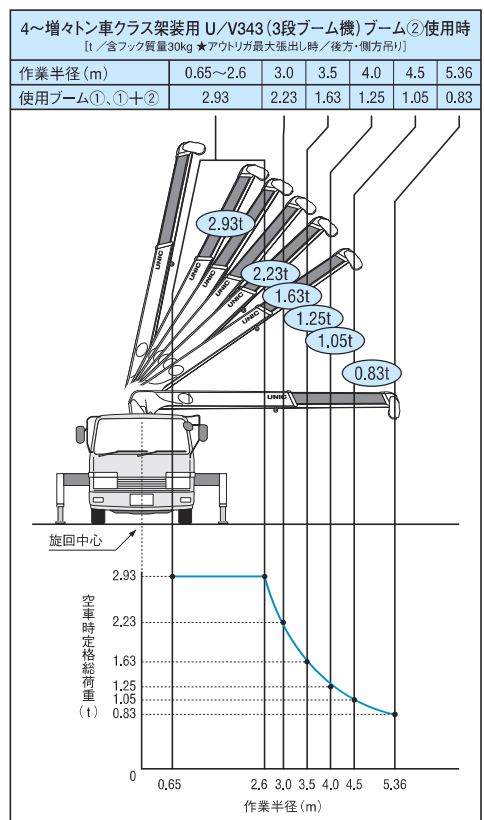


- 前方吊りとは、クレーン旋回中心とアウトリガ受け皿の中心とを結ぶ線より、トラック運転室側でのクレーン作業をいい、空車時定格総荷重表に記載されている数値の25%以下で作業を行って下さい。
- 後方吊りとは、クレーン旋回中心と後輪中心を結ぶ線の内側になります。但し、リヤアウトリガ装着車において、リヤアウトリガを使用した場合には、クレーン旋回中心とリヤアウトリガ受け皿の中心を結ぶ線の内側が後方吊りになります。
- リヤ架装の場合はキャブバック架装に比べ、側方吊りの性能が大きく変わりますので、ご注意ください。

空車時最大クレーン容量

空車時に基づくクレーンの最大性能で、吊上げ荷重を何mの作業半径で吊れるかを表しています。例えば「2.93t×2.6m」とは、吊上げ荷重「2.93t」を「2.6m」の作業半径で吊れることを表わしています。

空車時定格総荷重の変化



「クレーン本体定格総荷重表」

に基づき作業する

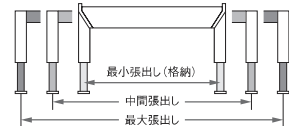
U-CANシリーズ☆☆☆☆ Super Safety

クレーン本体定格総荷重

クレーンの強度に基づき、各作業半径に応じて吊り上げることができる最大の荷重を、クレーン本体定格総荷重といいます。フックなど吊具の質量を含んでいます。

アウトリガ張出し幅によって変化する性能

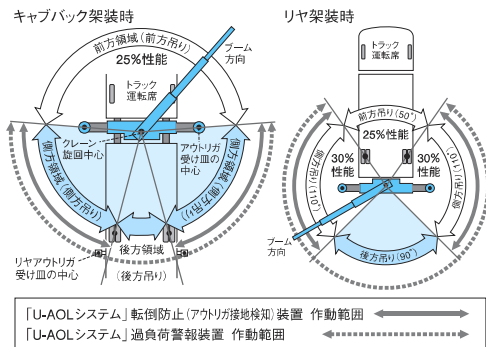
安定度は、アウトリガの張出し幅が広いほど高く、狭くなると低下します。クレーン本体定格総荷重の性能は、キャブバック架装時の後方領域及び、アウトリガを最大に張出し、十分な安定が得られる場合の側方領域における性能です。中間張出し、最小張出し状態及び、空車時など、十分な安定が得られない時、クレーン本体定格総荷重表に記載された性能より低下します。通常のクレーン作業では最大張出し状態で作業して下さい。



作業半径によって変化する作業性能

クレーンは、作業半径が大きくなるに従って、吊上げ性能が低下します。これは安定度によるものと共に、ボーム強度が低下することによるものです。ボームの「伸」操作や「伏」操作を行う時は、作業半径が広がるので十分に注意して下さい。また、前方領域でのクレーン性能は、通常の25%以下に低下するので注意が必要です。

作業領域及び、U-AOLシステムの作動範囲

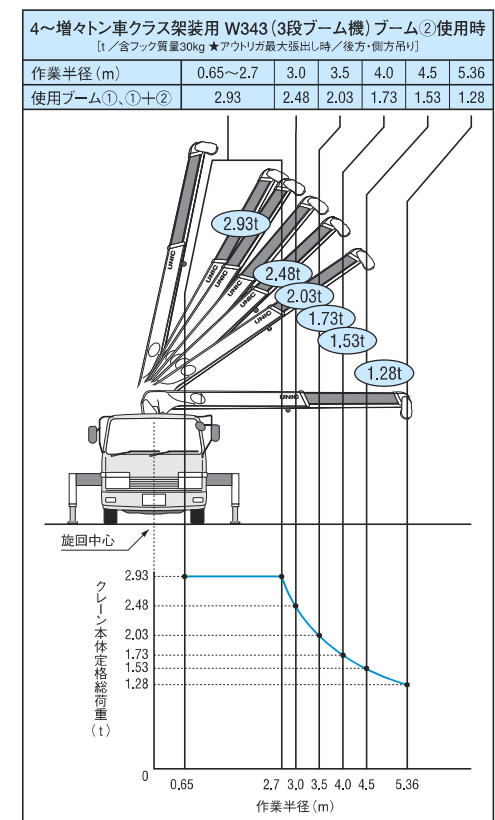


- ※ 前方作業領域は、「U-AOLシステム」の測定範囲外となります。
- 前方吊りとは、クレーン旋回中心とアウトリガ受け皿の中心とを結ぶ線より、トラック運転室側でのクレーン作業をいい、空車時定格総荷重表に記載されている数値の25%以下で作業を行って下さい。
- 後方吊りとは、クレーン旋回中心と後輪中心を結ぶ線の内側になります。但し、リヤアウトリガ装着車において、リヤアウトリガを使用した場合には、クレーン旋回中心とリヤアウトリガの受け皿の中心を結ぶ線の内側が後方吊りになります。
- リヤ架装の場合はキャブバック架装に比べ、側方吊りの性能が大きく変わりますので、ご注意ください。

クレーン本体最大クレーン容量

クレーン本体の強度に基づくクレーンの最大性能で、吊上げ荷重を何mの作業半径で吊れるかを表しています。例えば「2.93t×2.7m」とは、吊上げ荷重「2.93t」を「2.7m」の作業半径で吊れることを表わしています。

クレーン本体定格総荷重の変化



「U-AOLシステム」基準による、定格性能表示

クレーンは「強度」と「安定度」、各々の性能内において作業することが前提です。「U-AOLシステム」は、「過負荷警報装置」が、クレーンの強度を、「転倒防止 (アウトリガ接地検知) 装置」が、クレーンの安定度をそれぞれ測定。一方が限界を超える前に、過負荷警報装置が警報を発するか、または転倒防止 (アウトリガ接地検知) 装置が警報を発し、クレーンを停止するなどして、オーバーロードを防止するシステムです。これにより、十分な安定度を確保した時、クレーン強度の100%まで作業することが可能になります。このため性能は、クレーン本体定格総荷重で記載しています。

- ※ 空車時など、十分な安定度が得られない場合、クレーン本体定格性能に達する前に転倒防止 (アウトリガ接地検知) 装置により、クレーンが停止する場合があります。
- ※ 大型トラック架装用 UR-W500 / UR-W500Hシリーズは転倒防止 (アウトリガ接地検知) 装置を装備しております。
- ※ 「U-AOLシステム」: UNIC Anti-OverLoad system / オーバーロード防止システム

